

# ウミツバメ

浅野言朗  
井嶋りょう  
今鹿仙  
洸本ユリナ



詩誌ウミツバメ 第9号

# ウミツバメ 9号 2023年4月 目次

---

## ■詩

### 浅野言朗

翳り、	2
ほう	4
糾い、	6

### 井嶋りょう

東京の森	8
兎と月	10

### 今鹿 仙

ラジオ／砂浜	12
--------	----

### 洸本ユリナ

あの人	16
-----	----

## ■近況

浅野言朗 COVIDとWINDOW

井嶋りょう 二十七円

洸本ユリナ やばい

今鹿 仙 サブスクリプション

表紙：洸本ユリナ

浅野 言朗

翳り、

( 粗 )

( 泡 )

( 仮睡の鳥 )

( すみか )

（森の中に、夕刻、降り注ぐ、雨滴。森を白く染めて、空位を措定する。森は使い古された領分であり、わたくしたちは、それを活域から適切に離隔することを試みる。森の縁辺の小屋。その小屋には窓があつて、すなわち、窓のありふれた並びは、子供たちの言い訳のようなものです。森の中に唐突に置かれた、空位のような、frame work（青に近い、壞れの色彩）とその夕刻から、森、を反復する。枝枝に、吊る下げられるもの、すると、それは、〈森の擬態〉の擬態である。その森、には、不釣り合いな鳥の群れ、）

ほ  
う

(回  
転  
体) ← ← ← ← ← ← ← ← ← → (交  
接  
点)

柔らかい、ふさふさの、界面、  
線型に固定されて、鋭角に吊るされた、遺体、  
黒点、  
結節点（地点A、崩落）  
停滞、するもの、  
（雨滴の、なぞり／なぞられ）  
仮睡を、仮視する、  
その仮睡は鳥に譲渡される、  
梓・梓・梓 の中に、設営される。  
(雨接)  
(途絶)

糾  
い、

界面A..止まり木

そもそも、幻聴としての、

界面B..皿沢える窓

まずは、路を対角線に横切る、

界面C..喝采、

(ただし、森に吸着される)

界面D..あわよくば、

鳥、森は、句点の波に覆われ

界面E..あわただし、

夏↑↓(変換する) 取り巻かれ、

界面F..赤い frame work'

波は碎かれる、(語彙)、不足

井嶋 りゆう

## 東京の森

日差しが強くて目眩がしました 羽化して間もないはずの蝉が 数匹あお向けになつていました 東京にも森がありまして ほらあそこ あそこが古里だつたのでしよう 目覚めるものと眠るものとがあふれていて 表になつたり裏になつたりしていることでしょう

高いビルの中へ潜ろうとする私は 命の合唱へ背を向ける逃亡者のようにありました 惨いものが沢山ある私には ここが無法地帯のようにも感じられ もつと生き急いで早くお終いになさいと囁かれているような気持ちに

すらなるのですが、それはさすがに大袈裟だと言つてあなたは笑うでしょうか

開放的な温度を喜びながら共有出来ないことに、私はいつもすらと傷ついていました。名前の無い何かを奪われていくような脱力を感じるのでした。少しずつ縮んでいくようでもあり、はみ出していくようでもある私は急いでデスクに戻つて午後を始めなければもうここには来られないような気がするのでした。

整えられた行列の一部になつてしまつたあなたをずっと待つてゐるのです。東京の森を窓辺で眺めながら、何かが垂直に落下していく光景を、いつまでも見ていたような気がします。日差しが強くて目眩がしてくるのだと、誰に言えばくじけずにいられるのでしょうか。私は今日も朝から小さなことだけを考えています。

## 兎と月

急行満月行きの列車に乗り遅れた兎は  
九月の餅つき大会に間に合いません  
今年こそチャンピオンになりたかつたのに  
筋トレもしたのに  
有給休暇まで申請したのにと  
上下に飛び跳ねながら  
悔しさをにじませています  
次第にふてくされ始めた兎は  
近くの丘に登つて  
まだ半分だけの月を見上げながら  
大会用に用意してきた餅を  
冷凍保存の容器から  
取り出して食べ尽くし  
満腹になつたあと  
高いびきをかけて

そのまま眠ってしまいました

いつもそそつかしい兎は

今夜に限つてだけ

臨時列車の各駅停車満月行きが

間もなくやつて来ることを知らずに

それに乗れば

どうにか受付に間に合うとも知らずに  
よだれなど垂らしながら寝入つています

斜面から滑り落ちたことにも

膨らんだ腹の上で

虫が鳴いているのにも気づかず

表彰される夢の中で

筋肉を見せつけながら

一年分の餅を受け取り

長い耳を結んだりほどいたりと

一芸まで披露しながら

兎は陽気に眠っています

臨時列車の各駅停車満月行きが

いま出発しました

今鹿 仙

ラジオ／砂浜

ものの分け方にもポピュラーか  
そうでないか というはある  
うつかり自分のメモを忘れて  
人の持ってきてしまったようだ  
昔は名前が並んでいた

石に刻まれて いる ようで いて 本当は

砂が当たると 消えてしまう

サングラスをして見るとよい  
いつまでも残像がそこにある  
教会の道をまちがつた  
口巴もひしめいている

砂をどの女が噛んだとか

どの線路の上に置いてきたかとか

砂の粒を認識するよう

に踏むように認識することで

ようやく人間の自由が手に入る

三ヶ月くらいはそれで過ぎるだろう

思い出も新鮮なままだ

砂浜に打ち上げられた多くの人々の

ことでもラジオで耳にした

ききながらただ遠ざかるように家に帰つた

自由といつても水と砂が混じつておそつてくる

感性と知性がつぶれたように

一緒になつて終わりだ

イマヌエルはよかつた

日課は自らも遠く ただ

散歩していれば誰かが

歌うように声をかけてくれた

歌のなんたるかも知らず

その言葉もいつのまにか

二つ隣の国の言語となつた

自由に何の意味があつたのか

それは犬か柱のかけではなかつたのか

前頭葉がじやまで

角をもう曲がることができない

四回目を曲がれなければ

永久に遠ざかる

夕飯になにを食べたかを

最後の記憶として

足が削れてなくなるまで

歩くのだろう

忙しくてさびしい追放だ



# 洸本 ユリナ

## あの人

あの人は私に見えないものを見る

優しい言葉をかけてくれる

今日は顔色が悪く

ドアノブには無数のばい菌がこびりつき  
1秒でもマスクを外せばうつると言つ

あの人は私に聞こえない声を聞く

殺せるものなら殺してみると体を差し出す

私達は一方通行の映像しか知らず

黄青色旗めくビルの駐車場で

電波やばいと声がする

あの人は私に言えないことを言う

あの人はやばいと陰でささやく

あなたのためだと教えてあげる

自分がことなど持続不可能

ノンアル仕草でやり過ごせ

自分が感じたいものだけを感じており

あの人がやばいと信じて疑わない

静音カメラの盗聴器

事実をコラージュノンフィクション

口を出すことさえ憚られる世界線では  
誰もがその人になることを恐れている

昨年6月にフィンランドに出張する用事があり、現地での、ほとんど誰もマスクをしていない状況にビビっていたが、その時は、コロナにかかることがなく、やり過ごした。もうすぐコロナの季節も終わりなんだな、と実感して、帰国した。

ところが、帰国して暫く経った頃、ようやく時差ぼけも解消された頃に、日本では第七波が襲いかかって、その波に飲まれるように、この夏、私もコロナにかかりました。選挙の直前、元首相が殺害されたニュースが駆け巡った日である。その時の身体と意識を、振り返って記録しておきたい。関係者もいるので、感染経路の推測は、しない。

最初、数日、高熱があつた。4～5日くらいだろうか。39度ほど出たが、日中は少し下がつて、夜になるとまた上がる、ということを繰り返した。熱が上がると、外気温が高くても、毛布を被らないといけないくらい、寒くてふるえがあつた。加えて、コロナの陽性が分かった時から、医療へのアクセスから遮断される、という感じがあつた。感染が分か

ると、そういった患者としてカテゴライズされる。隔離による抑圧的な、対象の曖昧な漠然とした負の感情が自分の中に広がつた。

隔離を強いられ、医療機関だけではなく社会的な諸機能諸々へのアクセスが困難になる。すると、その社会的な措置は、自分自身で生き延びろ、というメッセージと受け止められる。しかし、外に出て、狩りをしないことには、生き延びることはできない。……、などと、熱にうなされながら、感じた。この時期に、多少なりとも、命の危険を感じた、というのは、嘘ではない。症状そのものに加えて、種々の社会的インフラへの接触を拒絶している、という意識によるところが大きい。

さて、高熱の時に、視界のぼやけがあつた。急激に、視力が落ちた気がして、本が読めなくなつた。夜も良く眠れなかつた。浅い眠りに、幻覚が大量にこびりついて、昼間聞いたニュースが意味不明の出来事として、脳内で反芻された。

高熱の時期が過ぎると、味覚と嗅覚の異常が続いた。味覚の異常は、何も感じない、というのではない。例えば、コーラを飲むと、苦みを刺すように強く感じた。味のバランスが崩れている。そして、その時期、嗅覚は、全くなくなつた。この間、食欲が

なくなつて、7キロほど、痩せた。

その後も、体調の回復は緩慢で、それから、刺すような喉の痛みが続いた。喉の奥の痛みに、身体全体を蝕むような、こわばり、が菓食つている。身体を水平に横たえていると、喉が痛くて、咳き込む。喉が痛いので、横になつていられない。安眠が出来ない時期が続いた。

感染から四週目になると、多少、体調は良くなつたようだ。けれども、鈍痛のような頭痛が続く。体調は、一直線にはよくならない。よくなつたと思つたら、喉の痛みがぶり返す。やはり喉の痛みは、通常の風邪のように、独立した痛みと不快さ、に留まらない。そこを起点に、身体の不調全体が誘発されているようである。倦怠感、については、表現していくが、やはり、身体全体が攪拌されて、深みに落とされて行くような感じがあつた。喉の痛みは、長く残り、間欠泉のように、唐突な心身の不調がぶり返した。

症状は、一ヶ月も優に過ぎた頃、ようやく気にならなくなつた。しかし、よくなつてはいるとは思うが、思いがけない時期に後遺症に苦しむ、という報道が出ると、あらわれるな、と思う。加えて、感染者が増えて、医療

施設へのアクセス困難が続くことへの不安。コロナにかかって、医療施設の受け入れ先が見つからず、命を落とした、という報道を見ると、複雑な感情になる。世界中が何年もオタオタしているのを見ると、人類の知恵、というのも、まだまだ発展途上であるのだろう。多くのことは、人災という性質がある。意外と穏やかに見える街のあちこちで、扉はしつかり閉ざされ、その向こうで、地獄が人知れず発酵していた。

※ ※ ※

世界幸福度ランキングというのがあり、五年連続第一位のフィンランドでは、日本よりも小さい面積に、日本の1／20程度の人口が住む。文字通り、余白が多い。可視化できるものも、できないものも含めて、余白の量が幸福度に比例しているようにも、感じられる。

フィンランドの家々の窓は、寒い気候のために、2重サッシになつていて。そして、そのガラスとガラスの間には、雪を模した綿が詰められている等、素敵なディスプレイがなされている。窓は閉ざされることなく、家々は、豊かな表情を湛えて建つている。街と森の余白の中に、優しい視線が、穏やかに遍満しているように感じられた。

人の少し明るい聲音の彼女から大量の硬貨が吐き出される。計算ミスをしたことに気づいた。

最近はセルフレジが増えている。利用する人も案外多いと聞いた。最近出来た近所のスーパーでもやはりそのシステムが導入されていたが、私はという

洸本ユリナ やばい

と店員の居るレジに並んで支払いだけ自分で操作するという、半分セルフを利用するタイプだ。その日も私は機械の前で指示を待っていた。事務的な女性の声で「お金を入れて下さい」と言われる。ほんの少し明るい聲音だ。早速紙幣を投入する。だが硬貨も使いたい。財布の中をじやらじやらと探していると「宜しければ確認をどうぞ」と言われた。ふと違和感に気づく。宜しければ、という声のトーンが少し落ちて不機嫌さが滲み出ているような気がしたからだ。もしかして彼女は苛立つてている？ お金を受けようよう促す時には事務的ながら明るさを含ませていたのに、なかなか確認を押してくれないとなるやうつすら不機嫌さを漂わせ、早く確認ボタンを押していくだけませんか後ろが行列になっています、とでも言いたげな様子だ。私は焦り出す。「宜しければ」、じやらじやら、「宜しければ」、じやらじやら、の攻防戦を繰り広げた結果、二十七円を投入して確認ボタンを押した。「ありがとうございました」とほ

何かを嫌いだとかいうことはあまり書かないようにしているけど、それでもやはり「やばい」という言葉が苦手である。誰にでも嫌いな言葉はあるのだろうが、私にどつては「やばい」の3文字が吹き出しになつて宙に浮いているように見える。似たようなブログ記事もあるようなので同じことを感じている人もいるのだろう。街中でも気がつけばよく耳にしている印象がある。一度気にして出すると止まらなくなるのが嫌いな言葉の特徴だし。

「この桃やばい」というように、驚きで良い意味のように使われることもあるけれど、やはり大抵はあまり良くない意味合いで使われているように思う。「〆やばい」「事故現場やばい」「あの人やばい」非常に良くない、悪い、大変だ、気持ち悪い、様々な感情や表現がこの3文字に込められる。

良い意味であれ悪い意味であれ、私が苦手だと感じる理由はきっと、この3文字で言葉が終わるからだ。「〇〇やばい（だから△△だ）」というように、

やばいの言葉以降に続く感情や感想、意見、事実といった「やばい以降に続く何か」が省略されている。もちろん、「このバニラアイスやばい。味が濃厚でもう他のアイスを食べられなくなるようだ」という

軟に対峙したほうがいいのは私のほうなのだ。きっと。でも、「やばい」は苦手だ。やばい、苦手なんだよ。あの言葉やばいよ。

ように言葉が続くこともあるけれども、大抵の会話においては「やばい」の3文字で言葉を発する者の発話が終わってしまう。本来そこで発したいであろう「悪い意味合い」を白く濁つた半透明のオブラーートに包んでしまう。やばいで終わる。

しかし、時代に沿つて言葉が移り変わっていくようには、これは時代の変化なのかもしれない。ウェブサイトで情報がすぐわかり、意思表示も簡単で即伝わってしまい、発言を間違えば炎上し距離を置かれる現代、若者に限らずどの世代でも共感と同調が優先され、余計なことを言わないようにと、嫌われるなどを恐れている。下手に意思を表現するのは怖いけれど何かを発したい、そこで「やばい」が発生する。やばいの3文字に込めてその場を済ませる。いとおかしいという言葉が平安時代に入つて風情の意味合いが加わったように、言葉は時代で変化していく。

### 今鹿 仙 サブスクリプション

最近は「サブスクリプション」といういわゆる額使い放題のサービス形態が人気で、私もいくつかも利用している。昨年からはアマゾンのKindle Unlimitedという電子書籍のサブスクリプションを始めた。といつても普通の書籍（最近だとリアルの本とでも呼ぼうか）も今まで通り購入して読んでおり、また電子書籍端末は複数の本を保有できるので、結果いくつもの本を並行して読んでいるという混乱した状態になつてしまつていて。

自分は気分によって読むものを替えるタイプなので、端末を開けては気分に合うものを選んで読む、ということをしている。だからなかなか電子書籍については読み終えたという達成感が得られない。達成感という側面で言うと、電子書籍はそもそも特徴として達成感が得にくい。長さに比例した重さがないし、読み進んでも左（未読）と右（既読）の比率が変わるものではない。

ずいぶん前に種田山頭火の全集がセールで安かつ

たため購入してあつたので、ある時それを読み始めた。文章が読みやすく、どんどん読めるのでかなり時間をかけて読み進んだが、端末の右隅にある進度が「3%」くらいにしかなっていない。なんだかじれつたりなり、全集は実際の本だといつたい何巻あるんだろうと思い、調べてみた。何種類があるようだが、多いものは11巻もあるようだ。検索して写真を見ると、横に並べて少なくとも50センチはあるらうかという幅の全体像のようである。

いわば私はこの50センチものの全集を一巻からいきなりかじりついて読み進めていったのだ。実際にリアルの種田山頭火全集がそこにあつたら、同じことを自分がやつたかどうか分からぬ。その意味では珍しいチャレンジを始めることができたようだ。これは電子書籍のメリットだろう。電子書籍に関しては、読了する達成感のことをあまり考えず、気軽に読み始めてみる、というスタイルがよいようだ。重さや大きさの概念がないデジタルというのは本当に不思議であり、面白い読書体験をしているなど感じる。先ほどの話で言えば、どつしりとした全集本を一冊鞄に入れて通勤の電車の中で読むことの困難さを考えると（まず着席していないと無理だらう）

便利になつたものだ。

電子書籍を使ってみて分かつた利点がほかにもある。これは端末の利点だが、夜、ベッドで本を読もうと思つたときに読書灯がいらぬところだ。端末の画面がほの明るいので、電気を消した状態で端末だけで本が読める。最近は無料で入手した与謝野晶子の詩集を毎日寝る前にはんの少しづつ読んでいる。それともう一つ、電子書籍の利点がある。これも端末の利点だが、辞書機能があり、分からぬ言葉を指でしばらく押さえていると意味が出てくるのだ。

インターネットの検索結果なので限界はあるが、体感で8割くらいは意味が調べられる。この間は晶子の詩に「巍然（ぎぜん）」という初めて見る単語が出てきて、運よくその場で調べることができた。

ちなみに現状、詩集はあまり電子書籍になつてない。自費出版が多いことも背景としてあるのだろう。遺念である。かくいう自分の詩集も電子書籍化していない。時間があるときに調べてみよう。このウミツバメも電子書籍化してみようか。



前号から2年半も経ってしまいました。いつもの「原稿と作業の遅れ」によるものです。これが完成したらやっと集まれるかなということを考えながら制作をしています。ところで、前回まで「共信印刷」さんという印刷所にお願いしていたのですが、前号を出して2か月後に事業をたたんでしまわれました。同人誌印刷の老舗なんだそうです。ウミツバメを最初に印刷したときは印刷の依頼に慣れておらず、オフィスまで伺って打合せをさせていただいたことを覚えています。（今鹿）

## ウミツバメ 9号

発行日 2023年4月

発行者代表 今鹿 仙

同人 浅野言朗 〒158-0083  
東京都世田谷区奥沢3-47-8-503

井嶋りょう 〒242-0001  
神奈川県大和市下鶴間2017-6  
ダイアパレスつきみ野壱番館501 武藤方

今鹿 仙 〒222-0036  
神奈川県横浜市港北区小机町1189-15 古村方

洸本ユリナ 〒160-0015  
東京都新宿区大京町2-12-202  
第11大鉄ビル 山崎方

印刷 株式会社ボブルス  
〒197-0013 東京都福生市武蔵野台1-15-19

定価 600円

